

説教 「聖霊の恵みに生きる」

(ヨシュア記 1 章 1-9 節 使徒言行録 2 章 1-11 節)

2022 年 6 月 5 日ペンテコステ主日礼拝

日本基督教団仙川教会

大串肇牧師

主の弟子たちが「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まって」いました。そのとき、かれらは聖霊を受け、全世界に福音を伝え始めました。まさに世界にはじめて教会が誕生した日を祝うためにわたしたちは集っています。ですからかれらがエルサレムを離れず集まっていたのは、ただ何の目的のないまま集まっていたのではありません。主イエス・キリストがかつて語られた約束を信じていたから集っていたのです。その約束の言葉はこういう言葉でした。使徒言行録 1 章 8 節です。

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

キリストの証人となる。これがペンテコステにおきた核心部分です。主イエス・キリストが十字架につき、復活されたことを証しする。それが真実であることを人々に伝えることが伝道であり、教会の目的であり、根本です。わたしたちもまたこの福音の証人となる。そのことを感謝し、喜び祝うことがペンテコステの祝いの重要な意味ではないでしょうか。

他方、復活の主イエスを実際に目撃した弟子たちはそういう意味で証人となるにはふさわしいかもしれません。しかしながらわたしたちはキリストを実際に目撃したことも、会ったこともありません。ただ聖書を読み、その教えを理解することはできるかもしれません。すべてを知っているわけではありません。しかし信じることはできるのです。問題はいかにしてキリストを信じ、その証人となるかです。

そこで注目したいのです。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」とイエスは言われました。「聖霊」は神の力です。ですから、たとえわたしたちに知識や経験がなくても、ただ聖霊の力強い導きによって、わたしたちは神の真理を悟り、神を信じ、真実を他者に証しすることができるようになるのです。

すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あつけにとられてしまった。(4-6 節)

こうして弟子たち一人一人に聖霊が与えられ、真理を悟り、神を信じ、真実を他者に伝える力が与えられました。その結果、彼らは様々な言語で語り出し、世界中にキリストの福音、聖書の真理を広めることになったのです。自分の力や知識、経験や判断に頼り生きていこうと思っても、実際なかなかうまくはいきません。かえってわたしたちは誤った道を追いつけ、自分自身の力に依存しているだけだと、結局は行き詰り、混乱したり、落ち込んだりしてしまうのではないのでしょうか。信仰も同じです。まず立ち止まって神のみ言葉に心静かに心の耳を傾け、何が神のみ心なのか祈るとき、かならずや神は一人一人に聖霊を与え、力を授けてくださるのです。

礼拝でこそ、わたしたちは聖霊が豊かに与えられ、力が与えられる時であり、場です。唯一の神を心から信じ、証しすることが出来るのです。聖霊を通して、わたしたちが一つになることができるのです。それこそ、聖霊の恵みです。わたしたちは礼拝を通じてその恵みを証してまいりたいと願います。お祈りいたします。